

## 5 教育相談

### 1 事業目的

幼児児童生徒の心身の健全な発達を支援するため、市内在住及び市内の幼稚園、こども園、小・中・特別支援・高等学校に在籍する幼児児童生徒及びその保護者、教職員を対象に専門の相談員による教育相談を行う

### 2 実施方針

- (1) 相談員の資質向上を図る。
- (2) 相談内容に合わせた対応や他機関との連携を図る。
- (3) 特別支援教育巡回相談を効果的に実施する。
- (4) スクールカウンセラーの資質向上を図る。

### 3 実施内容

- (1) 相談員の資質向上
  - ・ ケースカンファレンスやスーパービジョンをとおして相談員の資質の向上を図る。
- (2) 相談内容に合わせた対応や他機関との連携
  - ・ 相談ケースの受理を丁寧に行い、ケースカンファレンスで様々な角度から検討することで、よりニーズに合った相談の方向性を決定する。
  - ・ 学校園、学習支援室、こども家庭課等との情報交換を行うことで状況の把握に努め効果的な支援体制の構築を図る。
  - ・ 「発達支援センター」発足にあたり、こども家庭課との連携を図る。
- (3) 特別支援教育巡回相談の効果的な実施
  - ・ 相談内容に合わせて巡回相談を実施し、学校園における効果的な支援体制の構築を図る。
- (4) スクールカウンセラーの資質向上
  - ・ スクールカウンセラー研修を実施して資質向上を図る。

### 4 相談体制

#### (1) 面接相談

##### ① こころの相談

臨床心理士など専門の相談員が、様々な悩みや問題について、本人や保護者、教職員を対象にしたカウンセリング、遊戯療法、箱庭療法等をとおして継続的なこころの支援を行う。臨床心理士等の相談員が、必要に応じて学校やスクールソーシャルワーカー等との情報交換を行う。

##### ② 特別支援教育相談(発達相談)

専門の相談員が、発達の遅れやアンバランスにより生活や学習上の困難が生じていると思われる子どもについて、学校や家庭での様子の聞き取りや行動観察、発達検査等を実施し、対応の仕方や支援の内容・方法、専門的な支援体制の構築等について助言を行う。

##### ③ ことばの支援教室

専門の相談員(言語聴覚士)が、子どものことばに関する問題の理解や対応について、助言を行う。

##### ④ 医療相談

精神科医が、心身に障がいのある子どもや心理的な原因により不登校やその他の問題行動を起こす子どもについて、助言を行う。

## ⑤ 医療発達相談

発達を専門とする小児科医が、発達的な問題等により生活や学習上の困難が生じていると思われる子どもについて、助言を行う

## ⑥ スクールカウンセラーによる教育相談

市立小・中・高等学校にスクールカウンセラーを配置し、児童生徒の心の相談や教職員及び保護者に対する助言、援助等に当たる。また、教職員のカウンセリングマインドを高めることにより、問題行動等の未然防止や早期発見・早期解決を図るなど、学校における教育相談体制の充実を図る。

### (2) 電話相談

相談員が電話による教育相談を行う。内容によっては、継続相談などを紹介する。

### (3) 特別支援教育巡回相談

発達に起因する特別な支援を要する幼児児童生徒の在籍する学校園の教職員に対し、当該幼児児童生徒に対する指導内容・方法並びに専門的な指導体制の構築に関して助言を行う。巡回相談は、総合教育センター、伊丹特別支援学校、兵庫県立こやの里特別支援学校の巡回相談担当者および学校生活支援教員（平成28年度は瑞穂小学校、笹原小学校、西中学校に配置）により実施する。

年間7～10回程度、巡回相談調整会議を開催し、巡回相談担当者間の連携を図り、合理的配慮についての検討を行うとともに、学校園における専門的な指導体制の構築を進める。

### (4) 連携

学校園、こども家庭課、保健センター等、他機関との情報交換や「発達支援学習会」（主催：伊丹特別支援学校）等への参加をとおして、相談・支援の連携を図る。不登校や行きしぶりについての相談事例については学習支援室担当やスクールソーシャルワーカー等を中心に情報交換を行い、登校支援の方向性について共通理解を進めるとともに、不登校に係る状況把握を行う。

## 5 研修

### (1) スーパービジョン

相談事例の分析と今後の方向性について、相談員が大学教員等から指導を受ける。

ケースカンファレンス（週1回）で効率よくケース検討ができるように、討議の内容や進め方について検証し、相談員の資質の向上を図る。

### (2) スクールカウンセラー研修

スクールカウンセラーが関わる学校の諸課題について研修・協議し、スクールカウンセラーの専門性を向上させ、児童生徒の問題行動等の課題解決に資する。

## 6 成果と課題

### (1) 成果

① スーパービジョンのケース検討を通してカウンセリングの問題点を明確にし、カウンセリングの方向性について考えていくことで、相談員の専門性を高めることができた。

（3月末現在6回 のべ57人）

② 学校園の教職員やこども家庭課担当者、スクールソーシャルワーカー等との情報交換を行うことにより、子どもへのより適切な支援や望ましい環境作りについて一緒に考えることができた。

（3月末現在31回 61人）

③ 「特別支援教育巡回相談」では、相談員が子どもの特性に応じた支援方法や個別の指導計画の立て方等を教職員と一緒に考えた。また、学校園が専門的な指導体制の構築を図ることができるよう、各種発達検査や具体的な教材の活用等について助言を行った。

(3月末現在教職員のべ面接人数 583人)

- ④ 「巡回相談調整会議」でケースカンファレンスを行うとともに、「合理的配慮」や「伊丹市の通級指導教室」、「支援や助言の実際」等のテーマで研修を実施することで、構成員の資質向上に役立てることができた。  
(3月末現在7回 59人)

## (2) 課題

- ① 不登校や発達上の課題、複雑な人間関係や家庭環境等による情緒不安を主訴とした相談ケースが増えている。十分に検討して適切な相談を実施するとともに、スーパービジョンを通して引き続き相談員の資質向上を図っていく必要がある。
- ② 各学校園やスクールソーシャルワーカー等と情報交換を行うなど、連携して支援に努めていく必要がある。不登校や行きしぶりのケースについては学習支援室担当とも情報を共有し、不登校の未然防止や早期解決に努めることが大切である。
- ③ 巡回相談実施の日程調整が難しく、また、各巡回相談担当機関が実施した回数に顕著な偏りが見られたことから、実施方法等について検討していく必要がある。
- ④ スクールカウンセラーに様々なケースへの対応が求められている。スクールカウンセラーの力量を高めるため、実践的な研修を行うことが大切である。

## 7 実施状況

### (1) こころの相談

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規ケース数(人)	88	12	14	8	3	9	11	10	10	4	6	6	181
全ケース数(人)	88	107	113	139	147	102	109	115	117	151	126	125	1439
のべ面接回数(回)	159	217	245	232	166	212	218	233	194	196	233	220	2525

#### ○全ケース数(人)の相談内容内訳

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	
相談内容	いじめ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	不登校	42	58	54	50	46	45	45	49	45	45	49	574	
	進路・学習	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	4	
	友人関係	1	2	2	3	3	3	6	6	7	4	7	6	50
	異性・性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	親子関係	8	5	8	8	9	8	5	4	4	5	5	5	74
	しつけ・子育て	14	20	22	15	10	16	15	16	15	17	26	21	207
	身体・健康・発達障がい	4	5	7	42	63	11	14	17	20	58	18	21	280
	性格・情緒不安	13	12	16	16	12	13	15	12	14	13	11	17	164
	反社会的行動	0	1	1	0	0	1	1	1	1	0	1	1	8
	学校・教師の指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	5	3	3	5	4	5	8	9	10	9	9	8	78
合計	88	107	113	139	147	102	109	115	117	151	126	125	1439	

## (2) 特別支援教育相談(発達相談)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規ケース数(人)	6	11	14	24	22	10	16	14	16	15	16	13	177
全ケース数(人)	6	12	18	27	30	17	18	22	20	22	21	20	233
のべ面接回数(回)	6	13	19	33	37	20	22	25	20	24	22	24	265

## (3) ことばの支援教室

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規ケース数(人)	16	20	12	14	10	8	2	2	4	4	2	1	95
全ケース数(人)	16	30	34	28	20	28	20	22	22	18	18	14	270
のべ面接回数(回)	17	30	38	30	20	32	20	22	22	18	20	14	283

## (4) 医療相談

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規ケース数(人)	0	1	2	3	0	1	3	3	2	3	3	1	22
全ケース数(人)	0	2	3	3	0	2	3	3	3	3	4	2	28
のべ面接人数(人)	0	7	11	8	0	7	10	10	10	12	12	4	91

## (5) 医療発達相談

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規ケース数(人)	0	1	4	4	0	3	3	3	1	3	3	1	26
全ケース数(人)	0	2	4	4	0	4	3	4	3	4	4	2	34
のべ面接人数(人)	0	7	12	13	0	13	11	13	10	13	13	5	110

## (6) 特別支援教育巡回相談

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
全ケース数(人)	2	10	11	16	0	18	13	11	7	10	16	5	119
のべ訪問回数(回)	4	11	15	31	0	28	20	19	11	11	19	5	174
のべ面接人数(人)	7	24	54	120	0	75	57	78	35	66	56	11	583

## (7) 情報交換

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
全ケース数(人)	1	2	3	3	0	2	5	5	3	2	3	2	31
のべ面接人数(人)	1	4	6	4	0	4	6	10	3	3	11	9	61

## (8) 電話相談

(件)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	
相談内容	いじめ	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	4	
	不登校	0	0	2	1	2	1	2	3	0	1	1	14	
	進路・学習	0	0	1	1	0	4	1	1	0	0	1	10	
	友人関係	0	0	0	4	0	2	1	0	0	0	0	7	
	異性・性	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	親子関係	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	4	
	しつけ・子育て	2	3	0	0	0	4	1	0	0	2	2	1	15
	身体・健康・発達障がい	3	1	3	2	0	1	2	6	1	1	3	3	26
	性格	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	情緒不安・集団不適応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	反社会的行動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学校・教師の指導	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	3	2	9
	その他	0	0	0	3	0	2	1	0	0	0	0	1	7
合計	6	5	9	12	2	16	9	11	4	5	10	9	98	

## (9) スーパービジョン

	月日	講師	講師の所属先	内容	参加人数
1	5月10日	岩宮 恵子	鳥根大学 教授	再婚した母と暮らせず祖母と暮らしているAちゃんのプレイセラピー ～怒りや悲しみをどう表現していくか～	10
2	5月31日	伊藤 良子	京都大学 名誉教授	不登校男児の親面接過程	10
3	7月26日	康 純	大阪医科大学 准教授	性別違和や性同一障害を抱える子どもの理解と関わり方 ～学校や居育相談場面でのサポートについて～	9
4	10月4日	伊藤 良子	京都大学 名誉教授	良い子でないといけないと思っている小2女児の母親面接過程	10
5	11月1日	大島 剛	神戸親和女子大学教授	園での生活において手厚い支援が必要と思われる幼児の発達相談	9
6	11月29日	森 茂起	甲南大学 教授	不登校・爪いじりを主訴に来所することになった男子生徒とのプレイセラピー過程	9